月刊
立川と語ろう 立川に生きよう
えくてびあん
12
〈EKUTEBIAN-VOL.6. DECEMBER. 1989-EKUTEBIAN〉
まい あーと
■クレー人形「ジングルベルが聞えるよ」
by さとうその子

1988.12.14オリオン大星雲（9分露光）
夜の空が澄んで、美しい季節になった。見上げれば天はもう「冬の星座」がそれぞれの位置を占めそれぞれの詩をうたっている。ほら、あれが北斗七星、あれがオリオン座。
JUPITER
この小さい「地球」のほかにも、たくさんの星があって、そこから眺めれば、——ほら、あれが地球だよ。とコメ粒ほどの星を指差しているかも。
（撮影・立川天文研究会）
1986.3.13シリウス（3分露光）
立川市内夜景
北口を望む
1986.3.17ハレー彗星（300mm f4.5）
天は高く
EARTH
こころは広く
1988.12.14アンドロメダ大星雲（9分露光）

第4回立川市民健康のつどい

体にイイことしてますか？

ここ市民体育館周辺に、〝健康なら…〟と、いう健康自慢の老若男女たちが集まり、食に、体に、イイことあれこれ。さて、健康のほどは。

ストレス太りなどといわれる時代ですが……私もその典型ではありますが。フリーになりまして、特に健康管理に気をつけています。運動もなかなか出来ませんので、東洋医学を一週間に一度、体まず続けております。一週間の間に歪んだ体を円にもどす、この繰り返しが健康の秘訣です。

徳光和夫さん

卓球ってクラーいイメージがありますねえ、なぜか。で、それを明るくしようと林家こん平師匠がこの「らくご卓球クラブ」を作ったんですよ。あちこちにエキジビションで呼ばれますけどね、立川に来てみたら市民の方の参加が多いし、観てる方もみんなノッてるし。イヤー楽しかった！

らくご卓球クラブ

いつもニコヤカな藤本さん（全日本空手道連盟公認七段）「こうしてニコニコとして、健康でいられるのも武道のお陰だと思いますね。今日の自分のプログラムを崩さずに、同じことをたんたんと地味に重ねていく、そこに自然に精神力もついて丈夫でいられます。無理をしないことも大切。

藤本貞治さん

サッカーなら元気なこの方、元プロサッカー選手の奥寺さん。「感動をしていく、与えていく、そんなところに健康でいられるんじゃないかな。一つのボールで11人が力ひとつにして、22人がそれに燃え、何万という人達が熱狂していく。そこに身心が作られていくんじゃないかと思いますね。

奥寺康彦さん

珍妙な競技がいろいろ。長ぐつとゲタを片方ずつはいて走る長ゲタ競争、竹登り……。「ギネス『たちかわ』に挑戦〟の種目は一回目から大体同じ、記録を残しますから。長ぐつ投げは世界のギネスにもありまして、世界記録はゆうに60m以上、立川では約28m。少し開きがありますねえ」。

天野孝一さん

ベルリン↔立川
連載・7 AIR MAIL
えくてびあん エア・メール・ボックス

ベルリンも美しい秋を迎えています。私の住んでいるアパートは（昔からある建物の一角で、天井まで3m20cmもあります）ベルリン名所の一つ、シャルロッテンブルク城の南へ10分程歩いた所にあるので、日曜日などよくその庭へ散歩に出かけます。このお城の一部にドイツロマン派の絵画を集めたギャレリーがありますが、素晴らしい絵画も音楽同様、気持ちをすっきりさせたり、力を与えてくれるものです。

この街に住んで15年が過ぎましたが、秋に演奏旅行が多く、ヨーロッパ各地を訪れるということもあって、私のヨーロッパ文化との関わりも、このひんやりした澄んだ秋の空気と共に深まっていったようにも思います。

昨年はイタリアを主に回り、特にアドリア海側の古都ラヴェンナにあるサン・ヴィタル寺院のモザイクには全く感動させられました。その色彩の素晴らしさ！6世紀に造られたとはとても思えないほど新鮮でした。丁度その頃、モーツァルトのクラリネット協奏曲に取り組んでいたので、あのモザイクの一つ一つの石は、まるでモーツァルトの16分音符みたいだ…などと勝手に考えていました。美しい芸術作品はお互い共鳴し合う要素を持っているのでしょう。

この11月にカイロ・リンツ・ブリュッセル・ローマへの演奏旅行があります。特にカイロは初めて訪れるのでとても楽しみです。

来年は6月17日に東京文化会館で演奏予定があります。立川での再会を楽しみにしております。皆様お元気で。さようなら。

クラリネット奏者の四戸世紀さん（錦町）。小学5年生の時、周囲の反対を押して自分で楽器を買ったのが音楽人生の始まり。芸大時代、カラヤンに認められて渡欧。現在、ベルリン交響楽団首席奏者として活躍中。

表紙は語る

まい あーと■クレー人形
「ジングルベルが聞えるよ」by さとうその子

雪のかすかな音に、ジングルベルが響いてきそうなこの作品。高松町一丁目に住む人形作家・さとうその子さんのもの。

「昔はプラスチックのボタンに絵を描いていたんだけど…」と、ユニークな視点のもち主。主婦であり、妻であるその子さん、日常生活のなかにあるつい微笑んでしまうようなことを、その作品の中に取り入れ表現している。「ついつい忙しさにまかせて暮していると、人の体のおもしろい形やユニークな様子が見えなくなっちゃいます。そんなところを自然なものとして形にしてます。よく、作っている時の気持ちを聞かれますが、言葉にしちゃうと壊れてしまうから表わせませんが、ただ、粘土をこねて作っている時が主婦でもないし、妻でもない、一番自分らしい、自分であるんじゃないかなと思える瞬間ですね」。

人のこころに暖かなものを残してくれるその子人形。4年前から音楽の教科書（東京教育芸術社刊）の表紙を飾っているほどである。

子供たちのこころにも暖かいものが伝わる作品である。「機会があれば大きいものも…」と、夢ふくらむ。

?立川クイズ

昔の立川のしきたりのことなど、一ついかがでしょうか。

その昔、結婚式のときに「とんぼ盃」ということが行われましたが、さて、これは何の儀式？

❶新婦が新郎の家に到着すると、とんぼ口（勝手口）で酒の入った盃をちょっと口にする❷宙返りすることを「とんぼを切る」というが再び三々九度をしない意味で盃を伏せる❸固めの盃をのせた三方は「とんぼ結び」にした紅白の紐で飾ったので固めの儀式のこと。

〔10月号の答え〕❸

錦町4丁目にある「向郷遺跡」は、今から約四千年前の縄文びとの住まいの跡。そこから出土した滑石製のペンダント、実はこれ翡翠の模造品。何しろ翡翠は超高級品、なかなか手の届くものではありませんでした。古代の人の心情、スゴクよくわかる気がしますね。

漢字テスト答え

理非曲直

割鶏牛刀

あるいてあるいて〝20年〟

スポーツに親しむきっかけに、と始められた「市民あるけあるけ運動」が11月12日、60回目を迎えた。第一回目の多摩動物公園へのウォーキング以来、年3回のペースで実に20年！「秋川や狭山湖畔など近郊はあらかた行きつくしましたので、今後はいろいろ工夫をこらして、と思っています。市民の方にどんどん参加してほしいですね」と主催者の話。今回は60回記念ということで、ちょっと足をのばして紅葉の高尾山へ。係員に案内され約250人がおだやかな秋の一日を心ゆくまで楽しんだ。

立川・トピックス

全国優良警察職員賞、共に—。

去る10月6日、千代田区にある半蔵門会館にて全国優良警察職員受賞式が開かれた（警視庁長官主催）。年に一度行われるもので、今年は全国から一一五名の方がその栄誉に輝かれた。立川署からも、33年勤続の大ベテラン新海義永さんが喜びの表彰を受けた。立川にこられてまだ8ヶ月とのこと。「日々の積み重ねが、今回の喜びになっていったと思います」、と語ってくれた。受賞式には、ご夫婦おそろいで、長官の手よりじかに手わたされ、義永さんともども奥さまも讃えられた。

工房から

●実を申せば、いま工房内は『立川人・展』の開催直前で、おおわらわです。写真はカメラマンが撮ってくれる、会場はウイルから提供される、照明も専門業者が、という具合に何から何までひと様がやってくださるのに、どこか気ぜわしい工房内です。●一つには、会場が広くなったので（ウイルホール）そのスペースを利用してミニコンサートをやってみようという新企画のせいかも知れません。演ってくださる方も、聴いてくださる方も立川ゆかりの方々ばかり。ぜひ、お立寄りください。●もう師走。慌ただしいなかにも、たまには夜空を仰いでみてください。とおい国から、星の話し声が聴こえてくるかもしれませんもの。

町師走 天に向ひて えくてびあん

（編集）石塚教美　小川知子　神山清子　積川理　山田恵子　中村総里　半沢正弘　原田悦子
（写真）天野武男　板橋一明　吉田義治　スタジオ269　枝川一巳　本多修

ベスト立川人・展'89 開催

12月1日㊎➡5日㊋（AM11:00〜PM7:00 最終日PM6:00）
立川駅ビル ウイル9F
▶ウイルホール（国立駅寄り）にて◀

今年、5回目の立川人・展を記念しまして、会場内で初のミニコンサートを試みます。恒例の写真展とあわせまして、今年の「立川の成果」を存分に味わいにお出掛けください。

真如苑だより

今年も残り少なくなりましたがお元気でいらっしゃいますか。

大晦日、真如苑では例年のように立川の皆さまには精舎境内の参拝が出来ますように準備をすすめさせて頂いております。どなたさまも、夜十時から一時まで、どうぞご自由にご参拝ください。

アッという間の一年でした。そして早くも師走の慌ただしさが街をおおいます。

こんな時にこそ、こころ静かに来し方、行く末に想いをはせてみてはいかがでしょうか。どうぞ、今月も真如苑へお出掛けください。

■日時　12月15日㊎
　午後3時〜5時
■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。
■立川立民（成人）に限らせて頂きます。
■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

月刊えくてびあん　第65号
平成元年十二月一日発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市富士見町2−20−15
パークビューハイツ501〒190
電話　〇四二五(28)〇〇八二
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　㈱大廣社

漢字テスト⑰

空欄に一字挿入を試みよ。

▶理 非 ● 直

▶割 ● 牛 刀

12月3日

第9回立川市「少年の主張」大会開催

ところ：市民会館大ホール

※詳しくは☎㉓2111㊥342

第6回 我家は3代目

老舗といい暖簾の重みという。それも3代つづけば語り尽くせない物語があろう。この街にも沈黙して静かなる物語のかずかずがそここに隠されている。

帽子に夢をのせて

ハヤシ東京堂（柴崎町2丁目）

「飛行場が出来て立川も良くなるから」と、初代が渋谷から移って来たのが50年前。飛行機工場の作業帽、米軍の帽子、そして今やおしゃれな帽子の専門店、と扱う品の移り変りが街の歴史そのもの。時代の流れを読みつつも、帽子に自分の主張と夢をこめる。先の見えない曲り角もあったが「転業など考えたこともない」ときっぱり。

「お客の要求を知るにはいつも店にいることが大切」と不二雄さん。

刺繍の注文も多い。ミシンを踏むのは英子夫人。

地下道入口近くで営業していた頃の

左から 林雅之さん、不二雄さん、英子夫人、由美子夫人

後つぎとして育てられた2代目。服飾でセンスを磨きながら、やはり帽子こそわが道、と思い定めた3代目。共に補いあいつつ良きライバルでもある。そんな2人を暖かく支える夫人たち。「商売が楽しくて」と語る林さん一家だ。